

自然体験活動上級指導者（NEAL インストラクター）養成講習

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
20	7	6	6

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・ 子供の発達段階に応じて、適切かつ安全に指導できる指導者を育成する。
- ・ 自然体験活動の面白さ、楽しさを知り、それらを伝えられる指導者を育成する。
- ・ 活動を行う自然環境や子供たちを取り巻く課題に対応したプログラムを考えることができる指導者を育成する。

◆期日・期間

平成 29 年 9 月 22 日（金）～24 日（日） 2 泊 3 日

◆講師

国立大学法人信州大学	理事・副学長	平野	吉直	氏
小浜市教育委員会	教育長	森下	博	氏
グランストリーム	代表	大瀬	志郎	氏
京都府社会福祉事業団桃山学園	支援員	玉田	紗和子	氏
東海市適応指導教室ほっと東海上野	教育相談員	丹下	加代子	氏
国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター	研究員	青木	康太朗	氏
国立若狭湾青少年自然の家	企画指導専門職	等		

◆参加者分析

参加対象・・・自然体験活動に興味があり、指導者として自然体験活動の普及や振興に貢献できる 18 歳以上の方

※自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を取得し、演習Ⅰを修了済みの方が優先となります。

以上のような、参加対象として募集をしたが、参加者数が 6 名と非常に少なくなってしまった。本事業は、NEAL リーダーの資格取得の後、演習Ⅰ（18 時間）を終えた方が主な対象となる。また本事業は、本年度より、全国 28 か所の国立青少年教育施設を 5 つのブロックに分け、各ブロックで 1 施設実施となった。対象者を確保するために、本施設が所属する中部・北陸各ブロックの各施設や近隣の国立施設に連絡し、該当者に案内をしてもらうようにした。

参加者の 6 名のうち、3 名が国立施設職員、2 名が公立施設職員（うち 1 名は資格取得をしていないオブザーバー参加）、1 名が法人ボランティアであった。

国公立施設職員については、各施設で本事業を運営できる主任講師となるために資格取得を進めている。法人ボランティアの方は、社会人である。

より多くの参加者をとりたい、資格取得に関係のないオブザーバー参加も可能としたが、それでも参加者集めに非常に苦労した。まず、当施設では演習Ⅰを希望する者がいないことが挙げられる。

計画的に、NEAL リーダーの取得や演習の実施を行っていく必要がある。しかしながら、一方で、そもそも資格取得することのメリットを高められないだろうか。

また、演習Ⅰを終えた者の情報や、NEAL リーダーを終えた者の情報が、本部を経由し、共有できるようになると、広報の目安ができるようになると思う。

当機構として本事業を進めていくためにも、より連携して事業に臨むようになることが望ましいと思う。

◆企画のポイント（日程・特色など）

<日程>

【1日目：9月22日（金）】		＜こんなことを一緒に学んでいきましょう＞
12：50～	受付 開講式	
13：00～14：00	講義「ガイダンス」	NEAL インストラクターの役割と講習の流れを知ろう
14：00～15：30	講義「自然体験活動の特質」	既知との出会い、改めて自然体験活動って何だろう
15：40～17：10	講義「学校教育における体験活動」	学校教育の現状を知り、体験活動の可能性を考えよう
17：30～20：00	実技「自然体験活動の指導」	野外炊事やキャンプファイアーなどの実際
20：00～21：00	焚き火を囲んで情報交換会	
【2日目：9月23日（土）】		
09：00～10：30	講義・実技「自然体験活動の指導」	海の体験活動の指導について学ぼう
10：30～14：30	実技「自然体験活動の技術」	シーカヤック体験 若狭の海へ出ていこう
14：30～17：30	講義・実技「自然体験活動の安全管理」	海の体験活動のリスクマネジメントの考え方
19：00～21：00	講義「自然体験活動の企画・運営」	企画作成のいろはを学ぼう
【3日目：9月24日（日）】		
09：00～12：00	講義「対象者理解」	特定の状況にある子供たちについて学ぼう
13：00～17：00	講義・演習「自然体験活動の企画・運営」	自然体験活動のプログラムを考えてみよう
17：15～17：45	「認定試験」	
17：45	閉講式・解散	

<特色>

当施設の特色として、全国の国立施設の中で、最も海に近い施設ということが挙げられる。海がすぐ目の前にあり、教育事業においても、海での活動を取り入れた事業を実施していることから、講習会の中日、2日目を1日海の活動の日として設定し、自然体験活動の指導・技術・安全管理についてのコマを、海をテーマにして行うこととした。講師としては、当施設の看板事業である「海の自然学校」でお世話になっている大瀬志郎氏に依頼した。自然の家から無人の浜にシーカヤックでツアーに出て、自身が体験したことを踏まえながら、自然の中で、指導や技術、安全管理について学びを深められるようにと計画した。

また、対象者理解については、当施設と連携して事業を実施していただいている施設や機関から、講師を招き、体験活動が特定の状況にある子供たちに対し、どのような効果を期待されているのか、また、どのような変容が見られるのか、また、その対応はどのようにすればよいのかなどについて、深められる機会とした。生活・自立支援キャンプで連携している児童養護施設桃山学園からは、支援員の玉田紗和子氏を、不登校児童生徒を対象としている青空教室で連携している東海市適応指導教室ほっと東海上野からは、教育相談員の丹下加代子氏を招いた。

さらに、自然体験活動の特質については、信州大学理事・副学長の平野吉直氏、学校教育における体験活動については、当施設の地元小浜市の前教育長の森下博氏、自然体験活動の企画・運営については、青少年教育研究センターの青木康太郎氏をそれぞれ招き、それぞれの実践経験の豊富な講師を招き、専門的な知見から、自然体験活動について学べる機会を設定した。

◆運営のポイント

- 少人数での実施ということで、講師には、一方的な知識の伝達にとどまらず、できる限り双方向で意見交換ができるように、また、参加者同士の意見交換ができるように、講義を実施していただけるようにしていただきたいをお願いをした。
- 1日目は、アイスブレイキングも兼ねながら、野外炊飯を行い、様々な施設でも実施されている野外炊飯の手順や指導方法などをお互いに交換できるように進めることとした。同じく、キャンプファイアーについても、各施設や自身がこれまで行ってきた組み方を、互いに紹介し合いながら、進めるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	6	0	0	0
この事業のプログラムはどうでしたか	6	0	0	0
この事業の運営はどうでしたか	6	0	0	0

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- 様々な分野の方のお話はとても刺激的でした。内容の濃いプログラムでした。
- 今まで受講した研修会で、1 番学びになった会だと思います。ありがとうございました。
- はじめはインストラクターかあ～と思っていましたが、楽しく学べました。海が嫌いでしたが、若狭の海は好きになりました。
- 自分の考えを自分の言葉で理解できた。プログラムの立案や危機管理について分かりやすい講義で理解できました。しっかりふりかえりを行い、自分のスキルアップにつなげたい。

4. 成果と課題

(1) 成果

- 少人数での実施となったために、講師と参加者の距離も近く、また、講師との双方向での講義ができるとともに、参加者同士の意見交換も活発となり、よい雰囲気の中で講習会が実施できた。講師にもあらかじめ、参加者が少人数であることを伝えておくことで、少人数での講義に、互いに話す時間や一人一人意見をいう時間などを設けるなど、対応していただくことができた。
- 2 日目には、海の施設である若狭湾ならではの講義として、シーカヤックガイドの大瀬志郎氏を招いてカヤックのツアーを実施し、自然体験活動の指導・技術・安全管理のコマを行う予定とした。しかしながら、当日はうねりが高く、風も強かったため、湾内での活動に切り替えた。指導者が自然の状況に合わせ活動を柔軟に行うことは重要な視点であり、参加者がそれらを身を以て体験できたことは良かったと感じる。
- 対象者理解のコマでは、特定の状況にある子供たちについて学ぶ機会として、当施設と連携して事業を実施している 2 つの団体からそれぞれ講師を招いた。講師から、実際の事業のことにも触れていただき、特定の状況にある子供たちにとって体験活動がどのような効果があるのか、また、指導者が体験活動にどんなことを期待しているのかなど、現場の生の声を聞くことができた。

(2) 課題

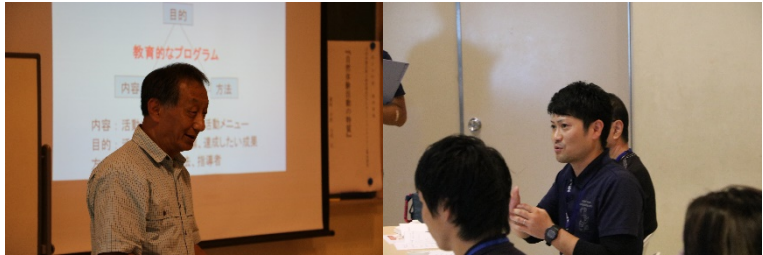
- 参加者分析のところでも触れたが、対象となる参加者の確保が難しいと感じた。自施設で計画的に指導者養成を進めていく必要がある。指導者資格を取得することのメリットについてははっきりとしたことを言えないという苦しい面があるが、その資格取得のプロセスでの学びについて、今後ボランティア養成セミナーなどでも積極的にアピールをしていくべきだと感じている。
- 2 日目は、シーカヤック体験を中心に体験から学ぶ機会を設けたが、天候にも左右されるし、参加者のスキルや経験にも左右されるなど、不確定要素が多くあった。海の施設だからこそできる体験には、そうした不確定要素が陸上での活動以上にあることも企画段階で十分に検討していくことが必要である。今後も、自然の中だからこそ学べる内容を検討していくことが大切であると考えている。
- 同じく参加者分析のところでも触れたが、インストラクター講習やコーディネーター講習については、演習を終えていることが必要になる。その人数についての把握は、各施設でしか行っていないのではないかと想定している。機構本部や NEAL 事務局においても、演習を受けている人数を把握し、その情報を共有できる体制が整えられないだろうか考える。

5. 活動の様子

1日目 9月22日（金）



スタッフも一緒にアイスブレイキング



信州大学理事・副学長平野氏より、自然体験活動の特質について、これまでの大学や施設など、様々な実践を例に挙げていただきながら、お話をいただきました。



小浜市前教育長森下氏からは、学校現場での豊富な経験をもとに、体験活動を通して子どもたちの成長を促すための工夫や考え方を聴くことができました。



自施設で指導している方法を共有しながら、野外炊飯やキャンプファイアーを行いました。

2日目 9月23日（土）



グランストリーム代表大瀬氏からは、海という自然の特徴や安全管理、自身のシーカヤックでの旅の話など、海で活動することの面白さを伝えていただいた。また、「沈」した際の再乗艇の方法などを教えていただき、1日かけて、海と存分に関わる時間を作っていただきました。



夜は、青少年教育研究センターの青木氏からは、参加者がこれから各施設や指導現場に戻って、すぐにでも活用できる企画・運営のポイントを分かりやすく話していただきました。その講義を受け、3日目のプログラムの企画も充実して行うことができました。

3日目 9月24日（日）



児童養護施設桃山学園の玉田氏からは、児童養護施設の役割や実態を、東海市適応指導教室の丹下氏からは、不登校児童生徒の実態や受容的な関わり方についてをお話いただきました。お二人とも、当施設での体験活動を実際にされており、自然体験が子どもたちにどんな影響を与えているのか、実例をもとにお話いただきました。



少人数の研修会となりましたが、講師の先生方には
双方向の講義をしていただき、充実した研修会とな
りました。講師の先生方、ありがとうございました。
また、参加していただいた皆さん、夕方遅い解
散となり、大変な研修であったかと思いますが、ご
参加いただき、ありがとうございました。